

そして映画の大衆性をベースにして、観客に影響を与え続けていく。彼の作品は、ただの
娯楽映画ではなく、観る人にさらに深く考えさせる作品となっている。自然と平和問題に
基づき、さらに人間の行方に関心を持ち、その生きる道を探究することが、宮崎のアニメ
ーション制作の一貫した特徴である。

本論は、宮崎駿及びジブリのアニメーション作品に重要なテーマとして位置づけられて
いた「生きる」ということに焦点を当て、宮崎駿によるアニメーション作品が、どのよう
な「生きる」という主題を表現しているのかを探るものである。『風の谷のナウシカ』を
はじめとして、彼のアニメーション作品において表象された「生きる」というのイメージ
は、宮崎駿の自然主義や平和主義などといった従来からの研究対象と同じく、彼が観客に
向け伝えようとした重要なメッセージであった。本論の目的は、まだ不明な部分の多い宮
崎駿によるアニメーション作品について、その作品の制作の背景を明らかにし、これらの
作品に描かれた「生きる」という主題が宮崎駿の思想とどのように結びついていたかを考
察することである。(52436字)